



令和2年2月25日
独立行政法人国立科学博物館

第8回 ヒットネット(HITNET) ミニ企画展 「香りの魅力ー日本の産業技術ー」開催について

国立科学博物館(館長:林 良博)では、日本の産業系博物館等の資料を検索できる共通データベース(ヒットネット=HITNET)を構築し、公開してきています。産業技術に関する資料を所蔵・展示している多くの産業系博物館が日本各地に存在することを紹介するために、このたび、ヒットネットに登録している155館から、「香り」に関連する4館を紹介するミニ企画展を開催します。各館に展示されている香りに関するエピソードなどをお楽しみください。パネルや展示品を見ながら、日々の生活を支え、豊かな文化を育んできた産業技術の面白さや、技術の歴史を見る楽しさを感じていただければ幸いです。

つきましては広報に関して特段のご支援・ご協力を賜りたくお願いいたします。

記

- 【名称】 第8回ヒットネット(HITNET)ミニ企画展「香りの魅力ー日本の産業技術ー」
- 【会場】 国立科学博物館 地球館 2階 (東京都台東区上野公園7-20)
- 【開催期間】 令和2年3月3日(火)～4月12日(日) 41日間
- 【料金】 常設展示入館料のみでご覧いただけます
- 【休館日】 毎週月曜日(月曜日が休日の場合は火曜日)。3月30日は臨時開館。
- 【開館時間】 9:00～17:00、金曜日と土曜日は20:00まで
※入館は各閉館時間の30分前まで
- 【主催】 国立科学博物館
- 【共催】 大分香りの博物館 (大分県別府市)
松栄堂薫習館 (京都府京都市)
磐田市香りの博物館 (静岡県磐田市)
東京農業大学 北海道オホーツク
キャンパス 学術情報センター (北海道網走市)

【ヒットネット=HITNET】では、日本全国の登録した産業系博物館等が収蔵・展示する資料を横断的に検索・閲覧することができます。ホームページ(<http://sts.kahaku.go.jp/hitnet/>)から、関心のあるキーワードを入力すると、データベース内の該当する情報が表示されます。私たちの生活を豊かにしてきた産業技術のルーツや、技術者・職人たちの創意工夫の跡を見ることができます。

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

産業技術史資料情報センター ヒットネットミニ企画展担当: 久米・井川・久保田

〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1 筑波研究施設内

TEL:029-853-8394 FAX:029-853-8492

E-mail: sts2006@kahaku.go.jp

URL: <http://sts.kahaku.go.jp/>

ヒットネット [HITNET] ミニ企画展

第8回

香りの魅力

—日本の産業技術—

産業技術のおもしろさを感じてみよう!



国立科学博物館

世界の牛乳パック
アメリカ・ヨーロッパ・アジア等の牛乳パックは200・500・1000mlの3種類があり、形状は屋根型、レンガ型。内容量は200・500・1000mlの3種類があり、年代は1960年代のものから現在まである。

産業技術史資料とは

「産業技術史資料」とは、日本の産業技術の歩みを示す実物の資料をいい、日本全国にある産業系博物館などが所蔵し、それらのうちの多くが一般に公開されています。これらの産業技術史資料から、私たちの生活を豊かにしている産業技術のはじまりや移り変わり、当時の技術者や職人たちの創意工夫の跡を見ることができます。

産業系博物館の展示分野

◆映像・情報、コンピューター



ウォークマン



卓上電話機

◆電気、電力

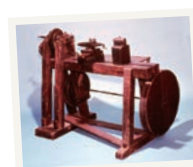


ガス自動炊飯器



ロータリースイッチ

◆産業用、業務用機器他



足踏式木製旋盤



ボール盤

◆自動車・船等、汎用機械



キハ65形急行用気動車



客船模型「浅間丸」

◆金属



現代刀

南部鉄器

◆化学、印刷



レンズ付フィルム



化学天秤

◆繊維・紙・木製品



絹紗織機

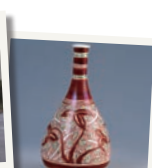


糸車

◆鉱業、建設、窯業



明石海峡大橋
ケーブル&ケーブルパン



色絵梅花寫文瓶

◆食品、農林漁業



蒸機トラクター



大倉式猪口付き壺

◆その他、サービス業等



六分儀



手回し洗濯機



大分香りの博物館

Oita Fragrance Museum

《大分県別府市》

世界の香水を集めた充実のコレクション 調香体験・アロマ体験もできる香りの総合博物館



- 大分県別府市北石垣48-1
- 電話：0977-27-7272
- <http://oita-kaori.jp/museum/about/about.html>



●2007(平成19)年に別府大学の創立100周年を記念して大分香りの博物館は開館しました。旧「大分香りの森博物館」の収蔵品を中心に、香りにまつわる様々な貴重な資料を展示する国内屈指の博物館です。香りの歴史や香水の製造などを解説し、世界中から集めた香水瓶や香炉、香道具、天然香料や蒸留器などを見学できます。また、アロマ(芳香浴)体験、オリジナル香水や匂い袋を作る体験もできます。屋外には、ハーブガーデンと天然温泉足湯もあり、別府の観光スポットとしても賑わっています。

マリー・アントワネットが変えた フランスの香水



ロココサロンの展示風景



マリー・アントワネット肖像画

2階の「香りヒストリーギャラリー」では、香り文化の歴史を展示しています。

9世紀頃に蒸留器が発明されると様々な香料から香りのエッセンス(精油)が抽出できるようになり、ヨーロッパの香水作りがはじまりました。フランスでは、ペストが入浴からも感染するとされて15世紀頃から入浴の習慣が消えたため、体臭を覆い隠すために強い香りが好まれるようになりました。しかし、18世紀、オーストリアからルイ16世に嫁いだマリー・アントワネットが入浴の習慣を持ち込み、ヨーロッパに入浴の習慣が復活しました。彼女は軽やかな香りの香水を愛用し、やがて貴族達にも流行し、現在の香水文化へとつながっていきます。

マリー・アントワネットのおかげで、
いまのような洗練された
香りになったんだよ

紀元前から現代までの 香水コレクション



20世紀を代表するボトルデザイナー、ピエール・ティナンの作品コーナー



コリントの香油壺
(紀元前5〜3世紀 ギリシャ)

香油や香水は、古くから高価な物として珍重され、同時にその器も発展してきました。紀元前には陶器、アラバスター(大理石の一種)、コアガラスなどで作られ、やがて高度なカットガラスの技法を用いたガラス瓶や、マイセンの磁器などへと発展していきます。当館では、紀元前の香油壺から、ロココ、アール・ヌーヴォー、アール・デコ様式の香水瓶など、約340点の香水瓶を一堂に展示。長年デザインを少しも変

えないゲランの香水瓶などがある一方で、新しい香水や香水瓶が毎年世界中で誕生しています。優れた新作香水に贈られる米国フレグランス財団主催の「FIFI賞」に輝いた香水も展示されています。

香水って、むかしから
こんな香りなの？

香水には
長い歴史が
あるのね



知る・学ぶ・楽しむ香りの世界 日本の香り文化を発信する博物館



- 京都市中京区烏丸通二条上ル東側
- 電話：075-212-5590
- <http://www.kunjyukan.jp/>



●奈良や京都などの多くのお寺にお香を納め、300年近くの薫香製造を生業とする老舗・松栄堂が、2018年、京都本社内に日本の香り文化の情報発信拠点として薫習館を開設しました。ホールでは京和傘の大きな照明に出迎えられ、1階フロアには、企画展などが開催できる「松吟ロビー」や、お香の原料の香りに触れられる「Koh-labo 香りのさんぽ」スペースがあります。2階には、年に数回、期間限定で公開される「松寿文庫展示室」があり、松栄堂が所蔵する香りに関する様々な資料が見られます。いろいろなお線香から香道まで、多岐にわたる香り文化について身近に触れることができます。

香りとの出会いを演出する体験空間 「koh-labo 香りのさんぽ」



かおりBOX



沈香などの香木を展示

コンセプトは香りとの出会い。散歩をするように香りに出会い、お香の世界への第一歩を踏みだせます。フロアには白檀や沈香といった香木が展示され、天井から吊り下げられた白い箱に頭を入れると香りを体験できる「かおりBOX」もあります。「香りの柱」コーナーでは、手元のポンプを押して様々なお香の原料の香りを嗅げ、今では体験することが難しい動物性香料の「麝香」などの香りも体験できます（展示替えあり）。

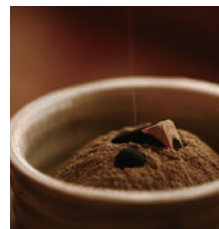


香りの柱

雅び豊かな日本の 香り文化の歴史を紹介



伏籠（ふせこ）：着物に香りを移している様子



薫物（たきもの）を
たいている様子

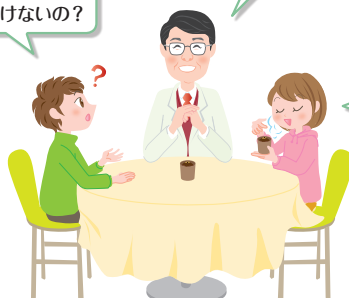
飛鳥時代、仏教の伝来と共に日本にお香が伝わったとされます。日本書紀には、「595年に大きな沈香が淡路島に漂着し、島人がかまどで燃やしたところ遠くまで薫り、不思議なこととして朝廷に献上した」と記されています。平安時代には貴族が香料を複雑に練り合わせ香りを楽しむ「薫物」が広がり、衣服や部屋への移香を楽しみました。鎌

倉・室町時代には香木の香りを繊細に鑑賞する「聞香」が確立。江戸時代には、茶道や華道と同じように作法が整えられ「香道」が確立されていき、日本の香り文化が形づくられました。

あれ？
お香に火をつけないの？

お香には、火をつけるもの、
火をつけずにあたためて香るもの、
また、そのままで香るものもあるんだよ

うーん、
いい香りね



磐田市香りの博物館

The Museum of Fragrance, Iwata

《静岡県磐田市》

「香りの森」を愛称とする博物館 感性が深呼吸する香りの夢空間です



- 静岡県磐田市立野 2019-15
- 電話：0538-36-8891
- <http://www.iwata-kaori.jp/>



●磐田市香りの博物館は世界的にも珍しい「香り」をテーマにした体験型の博物館で、小規模ながら公立の登録博物館では全国唯一の施設です。正面ゲートをくぐると、左右の壁面には古代四大文明ごとの香りをモチーフにしたレリーフが出迎えます。館内には香道具や香炉の他、世界の香水瓶など香りに関する美術工芸品の数々を展示し、毎年4回、香りにまつわる独自の企画展を開催しています。また、実際に様々な香りを体験できるユニークな各種コーナーも充実しています。「香りの体験コーナー」では、コンピューター診断によるレシピにしたがって自分だけの香りづくりが楽しめます。

歴史上の人物が愛した香りや 世界の香り文化を紹介



香りの文化史コーナー



クレオパトラ

「香りの文化史コーナー」は、香り人類との関りの歴史を紹介するコーナーで、実物資料や写真などを使い展示解説しています。また、タッチパネル式モニターでは、古代四大文明の香りに関する史実やエピソードを映像と音声で紹介しています。

例えば、エジプトのミラの語源は、腐敗防止などのために用いた香料「ミラ（没薬）」から生じたともいわれています。また、ツタンカーメン王の墓からは大理石の小壺が出土し、その中にはよい香りの香油が残っていました。古代エジプトの女王クレオパトラは、バラをこよなく愛して、バラのお風呂に入り、体にはバラの香油を塗り、寝室には膝が埋まるほどの花びらを敷き詰めたとそうです。

ユニークで楽しい 企画展を開催



「こぐま社の世界展」展示風景



過去の企画展

当館では、「香り」をテーマとした企画展を年4回開催しています。幅広い視点とテーマで香りを取り上げ、香りの奥深さ・神秘性・多様性を紹介し、開館以来80回を超える企画展を実施しています。企画展は良い香りだけではなく、「発酵と香り展」では世界各地の発酵食品を集め、世界一くさいといわれるシュールストレミング（塩漬けニシンの缶詰）やクサヤを紹介し話題となりました。また、恐竜のニオイ

イなど想像力をかき立てる企画や、フィギュアや食玩、絵本とコラボレーションした企画など、訪れる度にユニークな香りの展示が楽しめます。

3タイプの香料を正確に測ると
自分だけの香りができるよ

なんか、理科の
実験みたいだね

できた！これが
マイ・フレグランスね！



東京農業大学 北海道オホーツクキャンパスには 香りの科学を研究するユニークな施設がある



- 北海道網走市字八坂196
- 電話：0152-48-3818
- <https://www.bioindustry.nodai.ac.jp/~library/>



●東京農業大学は、北は北海道、南は沖縄まで全国のフィールドで、農林水産業の教育と研究に取り組んでいます。北海道網走市のオホーツクキャンパスにある「生物産業学部」では自然・生命・人間・社会を幅広く扱い、北の大地“北海道オホーツク”でしかできない学びを展開しています。ここにある学術情報センターは、図書館施設と学部情報基盤設備の管理・運用を包括し、香りの科学を含めた学習・研究活動の学術情報基盤を学生ならびに教職員に提供しています。一方、東京の世田谷キャンパスには「食と農」の博物館があり、クリオネの生体展示をはじめ農林水産業の展示が楽しめます。

香りを研究する 国内唯一の食香粧化学科



キャンパスアプローチ

香りには、食品に用いられる「フレーバー」と食品以外の化粧品などに用いられる「フレグランス」があります。北海道オホーツクキャンパスにある「食香粧化学科」は、動植物や微生物を元とする生物資源から作られるフレーバーとフレグランスを専門に研究する国内で唯一の学科です。

スズラン、ハッカ、ハマナスやホタテ貝など北海道の生物資源を主に扱い、香りを通して食品の美味しさや美容、健康を追求し、生活のクオリティを高めてゆくための研究をしています。

鼻をつまんで食べても
同じよね

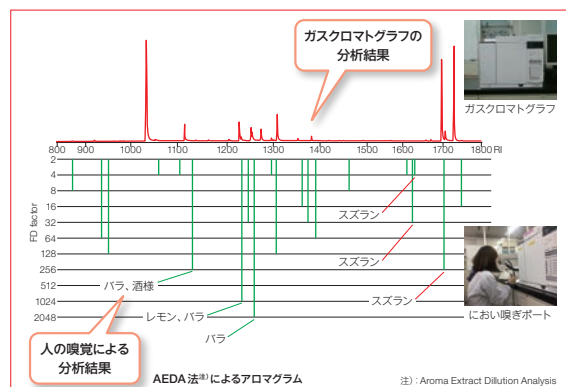
ニオイは、美味しさに
大きく影響するんだよ

鼻が詰まっているから
ケーキがあまり
美味しくないや



人の鼻は計測器よりも 優秀なニオイセンサー

●スズランの香気分析比較（香りの化学研究室提供）



ガスクロマトグラフだけでは、人の嗅覚で感じる香りをうまく検出できない

通常、ガスなどの気体の分析にはガスクロマトグラフという機器を用いますが、におい（香気成分）の分析ではこの機器

ににおい嗅ぎポートを付けて人の鼻も検出器にします。上の図は、三大花香として世界中で親しまれるスズランの香気分析結果ですが、人の鼻による嗅ぎ分けがガスクロマトグラフの結果と異なる

ことがよくわかります。機器では何も検出していないところでも人はにおいを検知していることから、においの分析では、現在の最新分析装置を用いても、人の鼻にはかないません。



スズラン

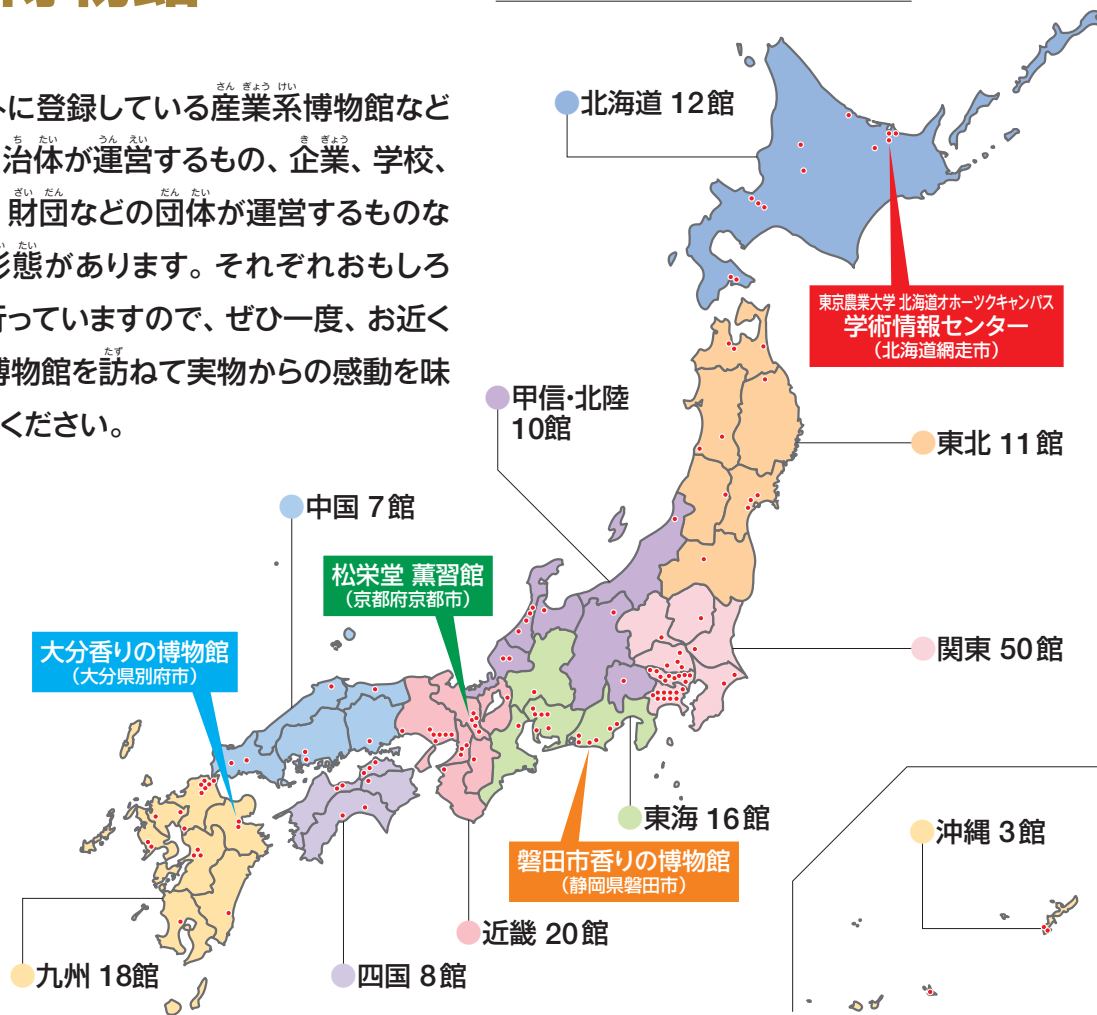
とう ろく はく ぶつ かん
登録博物館

ヒットネットに登録している産業系博物館などは、地方自治体が運営するもの、企業、学校、各種協会・財団などの団体が運営するものなど様々な形態があります。それぞれおもしろい展示を行っていますので、ぜひ一度、お近くの産業系博物館を訪ねて実物からの感動を味わってみてください。

◆博物館所在地

ヒットネット登録博物館数 **155館**

ヒットネット登録資料件数 **約25,200件**



ヒットネット ▶ <http://sts.kahaku.go.jp/hitnet/>



国立科学博物館

National Museum of Nature and Science

第8回 ヒットネット [HITNET] ミニ企画展
香りの魅力—日本の産業技術—

主 催 独立行政法人国立科学博物館

共催 大分香りの博物館

松栄堂 薫習館

磐田市香りの博物館

東京農業大学 北海道オホーツクキャンパス 学術情報センター

[大分県別府市]

[京都府京都市]

[静岡県磐田市]

[北海道網走市]

開催期間 令和2年3月3日(火)～4月12日(日)

開催場所 国立科学博物館 地球館2階

東京都台東区上野公園7-20



【編集・発行】国立科学博物館 産業技術史資料情報センター
国立科学博物館©2020

本誌に掲載された記事、写真、図版等を許可なく複製することを禁じます。